

送辞

風薫る三月、桜のつぼみが、新生活に期待する先輩方の心と同じように膨らんできました。卒業生の皆様、保護者の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。在校生を代表しまして心よりお祝い申し上げます。

入学してから本日までの3年間、先輩方は「夢学年」の一員として、多くの人との出会いの中で、様々な体験をし、数え切れない思い出を学年で築き上げてこられたことと思います。

先輩方との学校生活で、何よりも心に残っているのは、体育大会です。先輩方が皆団結し、全力で競技に臨む姿が、今でも鮮明に思い出されます。私たちの競技の前後に声をかけてくださったことは、とても心強く、その熱意とやる気に引っ張られて、私たちも団結し、精一杯競技に臨むことができました。また、最強リレーの後、代表選手が控え席に戻ってきた際には、先輩方の呼びかけで、奮闘した選手を激励するハイタッチの列がつけられたことに感銘を受けました。先輩方と共に汗や涙を流したこの体育大会は、かけがえのない思い出となりました。

合唱では、いつも引き込まれるような歌声を響かせていました。本年度の合唱コンクールでは、毎日練習を重ねてきた学級合唱も然ることながら、学年合唱の「河口」は圧倒的な技術と声量で、今でも強く心に残っています。一人一人が全力で取り組み、一致団結したからこそ創り上げることができたのだと思います。先輩方の合唱は常に私たちの目標でした。

部活動では、いつも私達の先頭に立ち、リーダーシップを発揮してくださいました。右往左往していた私たちを温かく迎え入れ基礎から一つ一つ熱心に教えてくださいました。部活動に真剣に取り組む眼差し、自分の記録に挑戦する姿や、仲間と力を合わせて勝利をつかもうとする姿は私たちの憧れでした。

今、こうして振り返ってみますと、先輩方は常に私たちの目標であり、心の支えでもありました。私たちは、扶桑中学校の三本柱や伝統を更に発展させていかなければなりません。これからは受け継いだバトンの重さを感じ、在校生が自覚を新たにして、一人一人が意識を高めていきます。

明日から夢学年の皆さんは、自分の「夢」に向かって羽ばたいていかれると思います。向かう先は決して平坦なものではありません。その夢に辿り着くまでに、疲れたり、道に迷ったりするかもしれません。そんな時は、この扶桑中学校で過ごした仲間との思い出や、培った三本柱を思い出して、先輩方の「夢」に向かって突き進んでください。

最後になりますが、卒業生の皆様のご健康と益々のご発展を心より祈念致しまして送辞とします。

令和2年3月3日

在校生代表 真野 聡真

式 辞

温かな風が新芽の息吹を運び、春を感じる今日のこの良き日に、第73回卒業証書授与式を挙げることに深く感謝申し上げます。

始めに、ここにお見えになる皆様にお伝えをします。新型コロナウイルスによる肺炎が大変心配されています。本日は、多くの地域の方々にご案内状を出し、ご来賓としてご臨席いただけるお返事をいただいておりますが、状況を鑑み卒業生、在校生、保護者の皆様、教職員のみで式を進めることとしました。卒業生の中には、これから公立高校の受検を控えている生徒もたくさんいます。どうぞ、ご理解ください。

卒業生の保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございませう。これまで温かな愛情の元に成長へと導いたお子様がここに大きな節目を迎えられたことに、お喜びもひとしおのことと存じます。これまでのご苦勞に深甚なる敬意を表しますとともに心よりお祝い申し上げます。誠におめでとうございませう。

184名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。本日を迎えるにあたり、今話したように「新型コロナウイルスによる肺炎」が、大変心配されました。まだまだ、予断は許しませんが、本日、皆さんにとって一生に一度の中学卒業式を行うことができ、私はとてもうれしく、そしてありがたく思っております。

さて、皆さんと私との出会いは、平成30年4月からの2年間でしたが、皆さんと過ごした日々が、いくつも思い出されます。

二年生の時の「若狭自然教室」での「カッター漕艇」は皆さんの底力を強く感じた行事となりました。出航の時は、穏やかだった海が、世久見浜に近づくにつれ、風が強くなり波が立ち、沖へ沖へと流される状態になりました。若狭湾青少年自然の家や世久見の皆さんのおかげで無事に浜に到着したときは、正直「ホッ」とし安心したことを鮮明に覚えています。そして、何より翌日にお礼を込めて、世久見浜の清掃活動を全員で一生懸命に取り組んでくれました。困難に負けず、そして感謝の気持ちを行動で表してくれました。

三年生の修学旅行では、キャリア学習として、取り組んだ都内班別研修は、東京でしか経験できない貴重な学びを進めるとともに仲間との絆を一層深めました。二日目の夜には、ゴルゴ松本さんの「命の授業」を全員で聞きました。これからの人生の指針を与えていただきました。三年生夢学年の「夢」を確かなものへ高めたと感じました。

そして、夏の大会・コンクールや体育大会・合唱コンクール、どの行事でも皆さんのはつらつとした若さあふれるエネルギーが、一・二年生を導きました。そして、3年間ともに励んだ仲間との絆を確かにしたことは言うまでもありません。

いよいよ4月からは、上級学校や社会へとそれぞれの道に進みます。巣立ち行く皆さんに、一つお願いがあります。

一年生の時から、様々な行事や活動で活躍した皆さんの学年目標は「夢を掴む～感謝できる三年生」でした。皆さんの夢の実現は、まだまだ途中だと思ひます。そして、これからの人生で、扶桑中学校で学んだ人としての基礎・土台の上にさらに「学び続ける人」であって

ほしいと言うことです。時に扶桑中学校での三年間を振り返り、必ず自分の夢をつかみ取ってほしいと願います。

そして、我が郷土である扶桑町や日本・世界を支える人になってほしいと願います。

結びになりますが、扶桑中学校で培った「敬愛信」の精神を胸に、これからの人生をたくましく生き抜いてください。次の新しい世界に向かって羽ばたいていく、第73回卒業生のみなさんの前途に 幸多からんことを心から祈り、式辞といたします。

令和二年三月三日

扶桑町立扶桑中学校長

山 田 恵 士